

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	九州大学	申請大学長名	有川 節夫
申請類型	複合領域型（環境）	プログラム責任者名	中島 英治
整理番号	H02	プログラムコーディネーター名	原田 明
プログラム名	グリーンアジア国際戦略プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、グリーン化と経済成長を両立したアジア（グリーンアジア）の実現に資する理工系リーダーの養成にある。資源消費の飛躍的削減と経済成長との両立は、人類社会の課題である。そして、アジアは、文化・社会的な多様性を内包し、経済成長と環境問題との相互矛盾を抱えつつも、活力あるメルティングポット状態となって発展しつつある典型的なモデル地区としての意味を有する。経済成長と資源利用効率向上の両立という人類が経験したことのない困難な課題を解決するため、産官学連携・国際協働のもと、3つの学術分野〔物質材料科学・システム工学・資源工学〕のいずれかを専門とし、自身の専門プラス他の2専門分野、および3分野の総体としての環境学、加えて理工学を支えるためのアジア・オセアニア諸国の社会学・経済学の基礎を複合的に修得、さらに、国内外の実践経験を積み、理工系リーダーとなるに相応しい五つの力〔研究力・実践力・俯瞰力・国際力・牽引力〕を獲得、かつアジア人材ネットワークを有する人材の育成を行う。

九州大学は、教育憲章や学術憲章に示されるように、教育においては、世界の人々から支持される高等教育を推進し、広く世界において指導的な役割を果たし活躍する人材を輩出し、世界の発展に貢献することを目指している。研究においては、人類が長きにわたって遂行してきた真理探求とそこに結実した人間的叡知を尊び、これを将来に伝えてゆくとともに、諸々の学問における伝統を基盤として新しい展望を開き、世界に誇り得る先進的な知的成果を産み出してゆくことを自らの使命として定めている。このためには、自由闊達な発想と洞察をもって、常に高みを目指し、新しい地平を切り開いてゆく絶えざる挑戦が求められるが、平成7年に独自に「改革の大綱案」を策定し、学府・研究院制度を始めとする構造的な改革に取り組んできている。平成16年度の法人化以降は、明確な目標・計画を掲げ、総長のリーダーシップの下で、様々な大事業や大改革が進められている。改革の具体的内容は次の8点に集約されている：1) 博士・修士・学士課程教育の系統性：学士・修士一貫と博士一貫の併存、2) 教育組織と研究組織の分離と管理運営システム：研究科・系教育と研究院の分離と連携、3) COE構築のための柔軟な協力システム、4) 柔軟で開かれた系の教育システム、5) 研究科と系の再編、6) 附置研究所・附属研究施設等の改革、7) 社会との連携の強化、8) 国際的連携の強化。それぞれが本プログラムに深く関わっているが、特に本プログラムは、学内の4つの専攻を中心に、6つの研究院、4つの付置研究所・センター・研究機構の協力の下、文理協働・社会連携・国際連携の推進を掲げ、5年一貫の新しいタイプの博士課程教育システムの構築を目指すものとなっている。

2. プログラムの進捗状況

採択後初年度である平成24年度は、上記を目的とした教育システムを準備し、順調にスタートした。具体的には以下の通り。

- (1) 運営体制の整備：①全学規則、学府規則等を整備し、グリーンアジア国際戦略コースを開設した。②工学府および総合理工学府における特定教育講座を設置し、特定プロジェクト教員8名を新規採用、配置した。③プログラム運営主体となるグリーンアジア国際リーダー教育センターを設置・開所した。④同センターに事務局を開設し、テクニカルスタッフ・事務員を採用した。⑤運営委員会、各種専門委員会および国際アドバイザーボードを設置し、各委員会の有機的連携の元を実質的運用を開始した。⑥事務局、教員室、学生研究室等のスペースを確保し、整備した。
- (2) 教育プログラムの整備：①コース入試の理想像を設定し、選抜試験を実施し、第1期生6名を受け入れ、以降の問題点を整理した。また、第2期生の入試準備を進めた。②理工系、人文系の講義を手配、開講した。特に、人文系科目に関しては非常勤講師を手配して集中講義形式で実施した。③英語演習を手配、実施した。④各コース生について研究室ローテーションを手配、実施した。⑤キックオフシンポジウム開催時に学生フォーラムを併設して実施した。⑥コース生のシンガポール実習を実施した。⑦コースカリキュラム開発のために高学年のモニター生を募り、タイ実習を実施した。⑧コース生のアフタヌーンコロキウムを計画し、第1回目を開催した。⑨コース生の成績の管理等の方法を検討した。
- (3) 連携体制の整備、連携企画の実施：①11月と1月に国際アドバイザーボード会議を開催し、国際連携先と今後の進め方等に関して協議を行った。②1月にキックオフシンポジウムを開催した。③国際連携先、企業連携先、自治体連携先を訪問し、今後の進め方等に関して個別協議を行った。④国際連携および国内連携の試行を兼ねて、シンガポール実習、タイ実習を実施した。両演習は今後の実質的国際連携、国内連携のモデルケースないしはテンプレートとなる。
- (4) 広報活動：①パンフレット（簡易日本語版、日本語版、簡易英語版、英語版）を作成し、各所に配布した。②学内、国内、海外に向けて入試説明会を多数実施した。③ホームページ（日本語版、英語版）を作成し、公開した。④ニュースレターを企画編集し、発行した。⑤九州大学のプレスリリース、九州大学広報誌、九州大学University Information、北海道大学との合同による研究活動報告会、リーディングフォーラム2013等、機会をとらえて本プログラム内容等の説明を広報した。⑥海外コア連携先を含むアジア圏の主要大学を訪問し、学部生を対象として本プログラムに関する説明会を開催し、次年度以降の海外からの優秀なコース生確保の布石とした。